

# 生涯スポーツ社会づくりの基本理念

## 1. 生涯スポーツとは

本計画では一人一人のライフスタイルや年齢，性別，体力・運動能力，健康状態，興味等に応じて，「誰もが生涯を通じて，いつでも，どこでも，いつまでも気軽に親しみ，楽しむスポーツ」を「生涯スポーツ」ととらえ，その中身を，競技スポーツをはじめ，ウォーキングやジョギング，レクリエーション等の軽い運動を含めた幅広い分野の活動を，「するスポーツ」と「みるスポーツ」，そして「支えるスポーツ」の3つに分類し，その振興を図ります。

### — <するスポーツ> —

主に健康の保持増進や心身のリフレッシュ，運動不足の解消や運動不足からくる種々の疾病予防等の観点からおこなわれる「日常生活型スポーツ」から，サッカーや野球，バスケットボール等の勝敗を競い，争う「競技スポーツ」，就学時期におこなわれる「学校体育・スポーツ」までを「するスポーツ」として分類します。

### — <みるスポーツ> —

「するスポーツ」を応援するといった身近なものから，競技スポーツやレジャースポーツを実際に競技施設や，テレビ，ラジオなどのメディアを通じて，「みる・きく」ことにより，そのスポーツへ共に参加し，楽しむことを「みるスポーツ」として分類します。

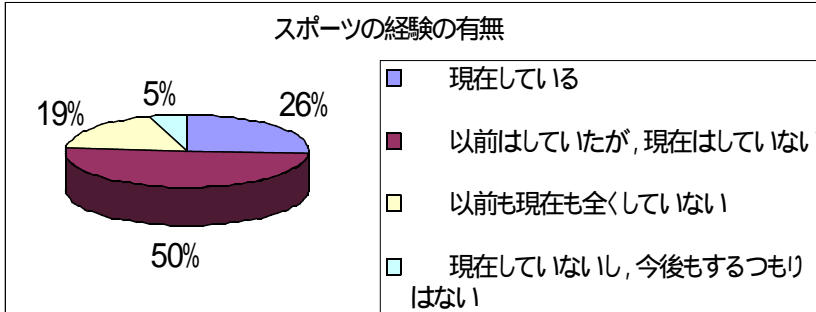
### — <支えるスポーツ> —

身近な競技的なスポーツイベントの企画・運営に携わったり，ボランティアとして共に参加し，スポーツに関わる楽しみ・喜びを分かち合う人もいます。「するスポーツ」「みるスポーツ」を支えることで，自らスポーツに参加し，楽しむことを「支えるスポーツ」として分類します。

## 2. スポーツの現状と振興の課題

長崎市におけるスポーツの実施状況や市民スポーツに関する意識の調査を目的に、平成15年12月に「市民におけるスポーツに関する意識調査」を行いました。市内に在住する満20歳から80歳までの成人男女2,000人に郵送によるアンケート調査を実施し、有効回収数は544名で27%でした。

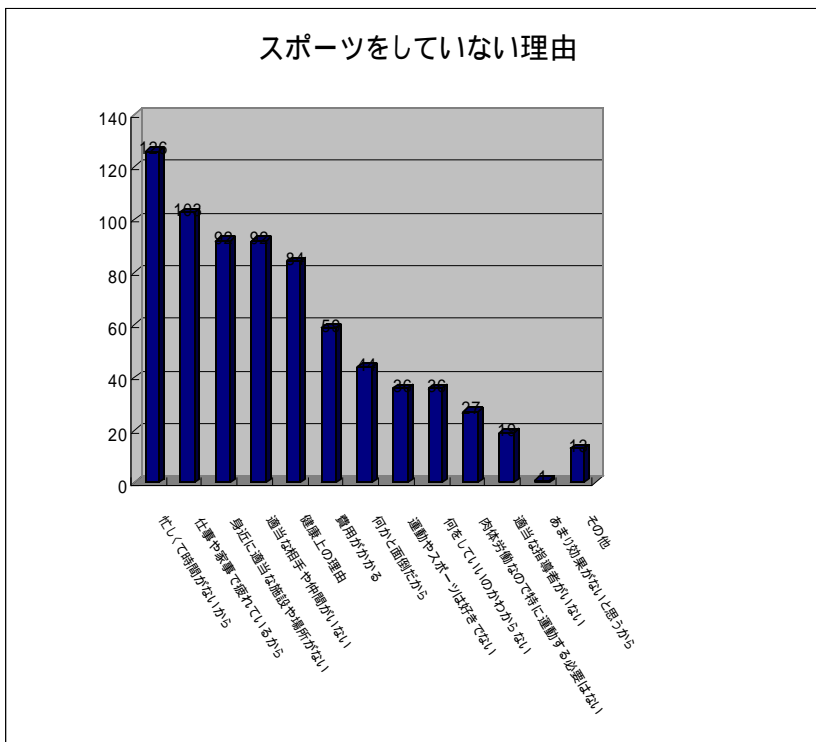
### するスポーツの現状と課題



### 「するスポーツ」の現状

現在における運動やスポーツの実施状況は、全体の約4分の1強の人が何らかの運動やスポーツを実施しています。

また、「以前はしていたが現在はしていない」人が全体の半分以上を占めており、何らかの理由があって現在スポーツに関わっていない人が多いことがわかります。



現在運動をしていない人の理由としては、「忙しくて時間が足りない」、「仕事や家事で疲れているから」等の個人的な理由が全体の30%に及びますが、「身近に適切な施設や場所がない」、「適切な相手や仲間がいない」等の第三者的な理由が次に続いており、行政として関わらなければならない課題が浮き彫りになっています。

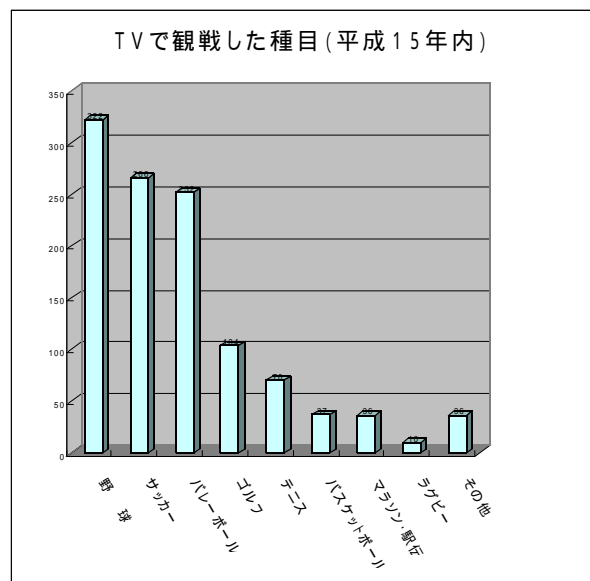
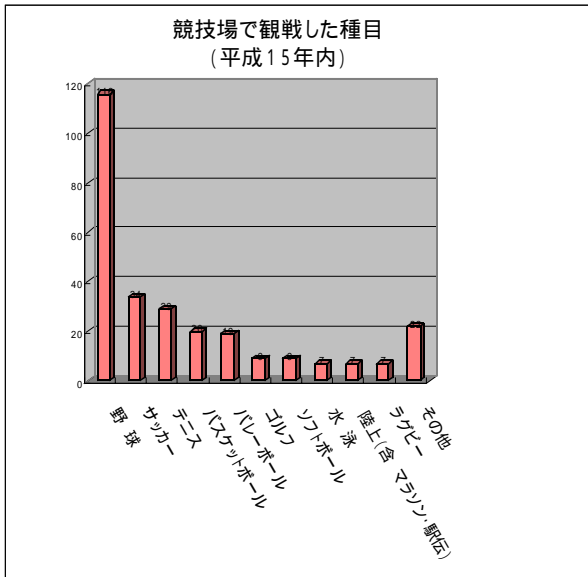
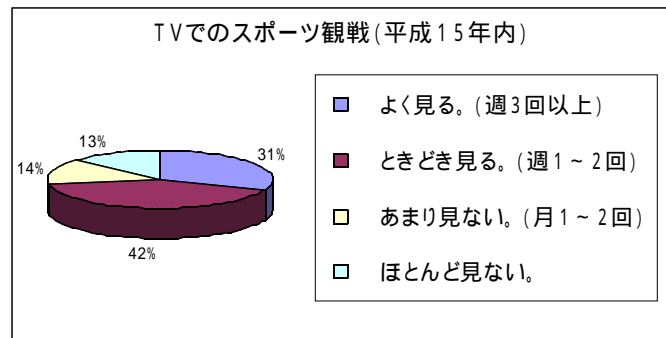
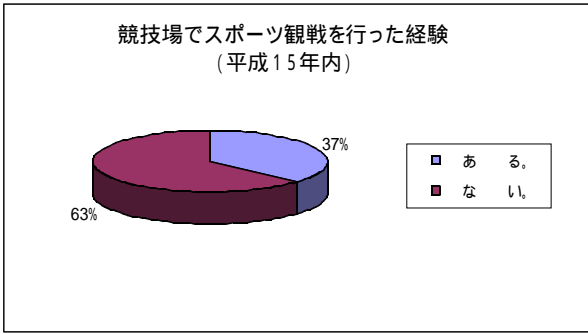
### 「するスポーツ」振興のための課題

「するスポーツ」を実施するうえで、障害となっている「身近に適切な施設や場所がない」、「適切な相手や仲間がいない」等の理由を解消するために、施設の整備や有効活用、スポーツ情報の提供といったハードウェア・ソフトウェアの両面で総合的に整備を進めていく必要があります。

また、従来のすべての年齢の市民をひとまとめにしたスポーツの振興の推進から、学校体育・スポーツ、競技スポーツ、日常生活型スポーツといった生涯スポーツ全般において、「子どものスポーツライフ」、「若者のスポーツライフ」、「中高年のスポーツライフ」、「高齢者のスポーツライフ」の4段階のライフステージ別にスポーツの振興を推進していく必要があります。

さらに、障害のある人とスポーツとの関わりにおいても、福祉の観点にとどまらず、各自の障害の種類、程度や体力等に合わせてスポーツに親しんだり、競技力及び記録の向上を指向するなど多様化しつつあり、これらのスポーツニーズにも適切に対応していくことが必要です。そのためには、障害のある人に配慮した利用しやすい施設の整備、スポーツイベントの開催など、関係所管が協力し、多様な施策を講じていく必要があります。

## みるスポーツの現状と課題



### 「みるスポーツ」の現状

過去1年間にスポーツの試合を直接見に行った人の割合は、37%とおよそ成人市民の3人に1人以上で、「プロ野球」等のスポーツを見るために直接会場に足を運んだことになります。

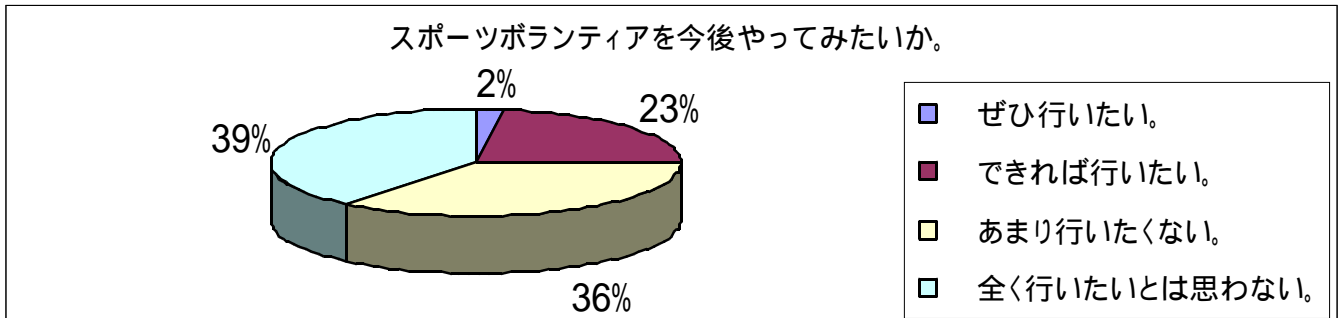
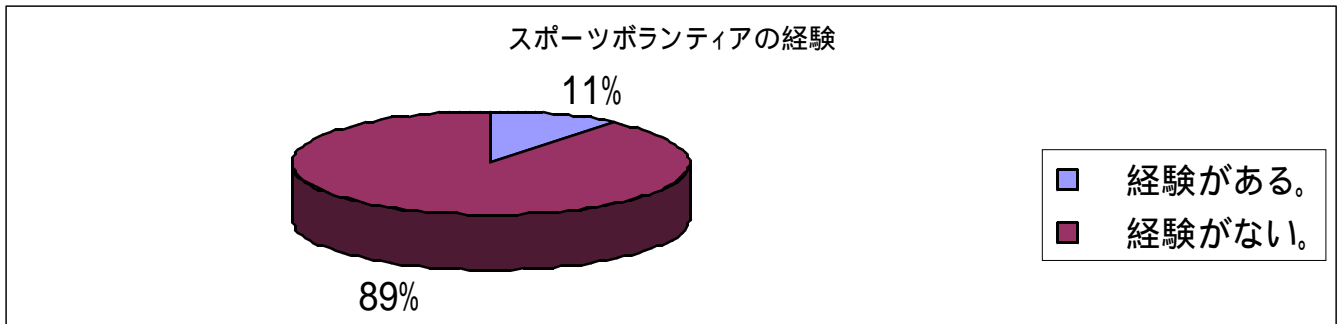
また、TVでの観戦については、全体の約9割の人が多かれ少なかれ、メディアを通じてスポーツ観戦をしていることがわかりました。

### 「みるスポーツ」振興のための課題

新たなスポーツイベントの開催や従来のスポーツイベントの見直しによって、全国的大会・試合等の誘致やその誘致活動に併せたイベントの開催、または市民を対象にしたイベント等の広報などにより、スポーツに接する機会の充実に努め、市民の関心を高めていく必要があります。

また、児童・生徒の競技スポーツの応援など、身近な「みるスポーツ」の育成も必要です。平成15年度に開催された長崎ゆめ総体で寄せられた多くの意見に見られるように、身近な児童・生徒の活躍が市民のパワーの源となることが考えられます。さらに、小学生には中学生を、中学生には高校生等身近な上級者の試合等を見ることが出来る機会をつくることも「みるスポーツ」から「するスポーツ」を育むことにもつながると考えます。また今後、長崎市特有の地形や風土・歴史等を生かしたシンボリックスポーツの育成なども考えられます。

## 支えるスポーツの現状と課題



### 「支えるスポーツ」の現状

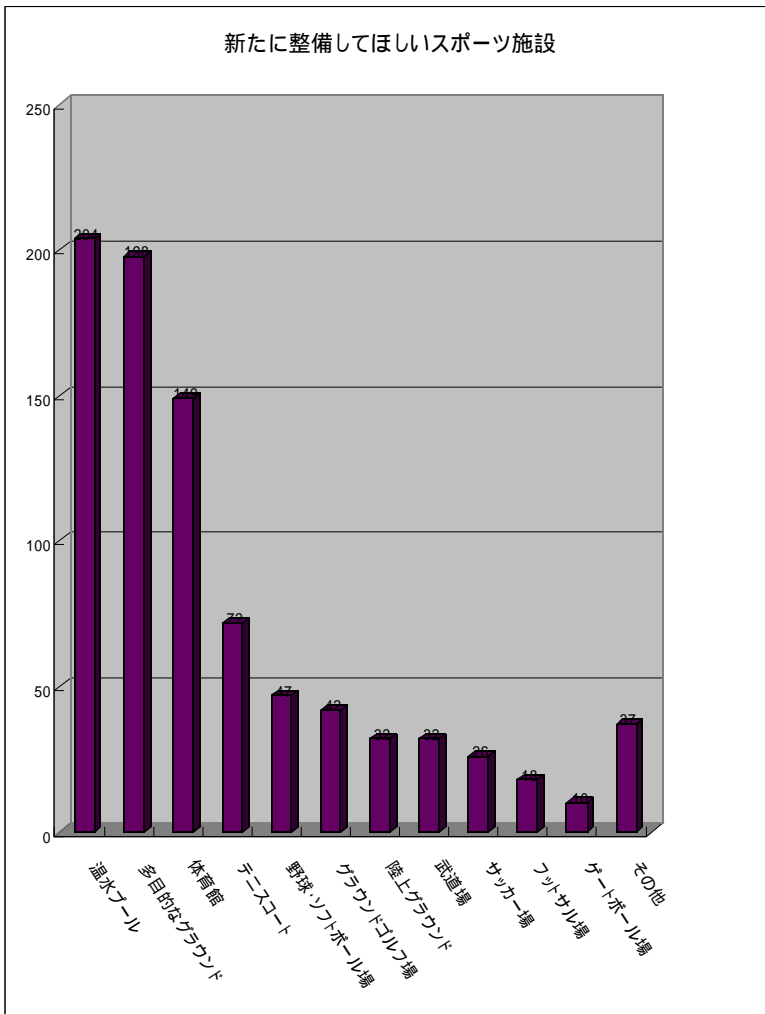
過去1年間にスポーツボランティアの経験がある人は全体の11%と少数でした。

また、今後行いたいと考えている人も少なく、「ぜひ行きたい」「できれば行いたい」を合わせても15%と少なく、「地域のスポーツ行事の運営や世話」としての活動を挙げた人が約半数でした。

### 「支えるスポーツ」振興のための課題

全市的、または地域におけるスポーツボランティアのニーズは高いものの、今までは単発的な取り組みが多く、その経験等が以後に有効に活用されるシステムがありませんでした。今後、スポーツイベントなどの社会行事を企画・運営していく団体の育成システム作りや体育指導委員や社会体育指導者などの有資格者の活用をはかるとともに、日頃の活動状況等を市民に継続して提供し、幅広い支援が行われるように、システムを整備していく必要があります。そのためにも、スポーツボランティアの実例や地域のスポーツボランティアの活動を市民へ周知していくことも大切だと考えています。

## 新たに整備して欲しいスポーツ施設と学校体育施設の開放や公共スポーツ施設についての要望と課題

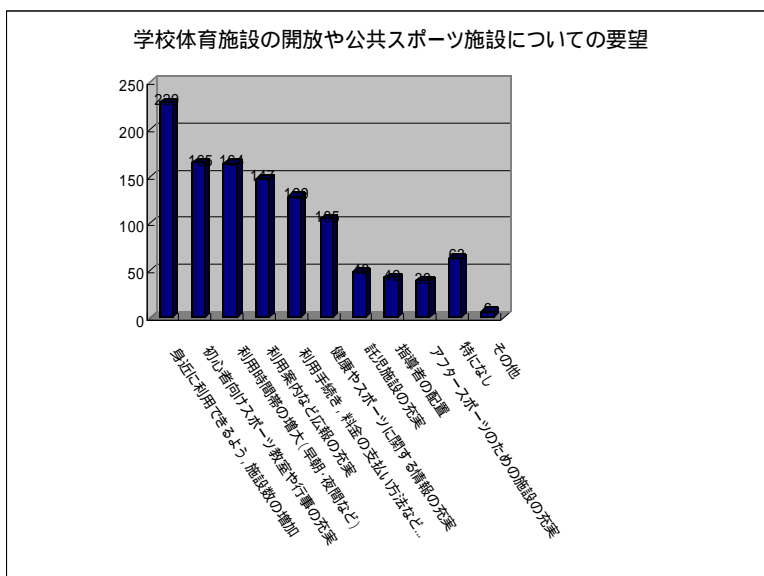


### 「新たに整備して欲しいスポーツ施設」

新たに整備して欲しいスポーツ施設については、「温水プール」、「多目的なグラウンド」、「体育館」の要望が多くありました。

### 「新たに整備して欲しいスポーツ施設」の課題

上記の施設について、長崎市の土地事情等を考えると、新設するのは難しく、施設の有効活用によって補う方法を検討しなければなりません。



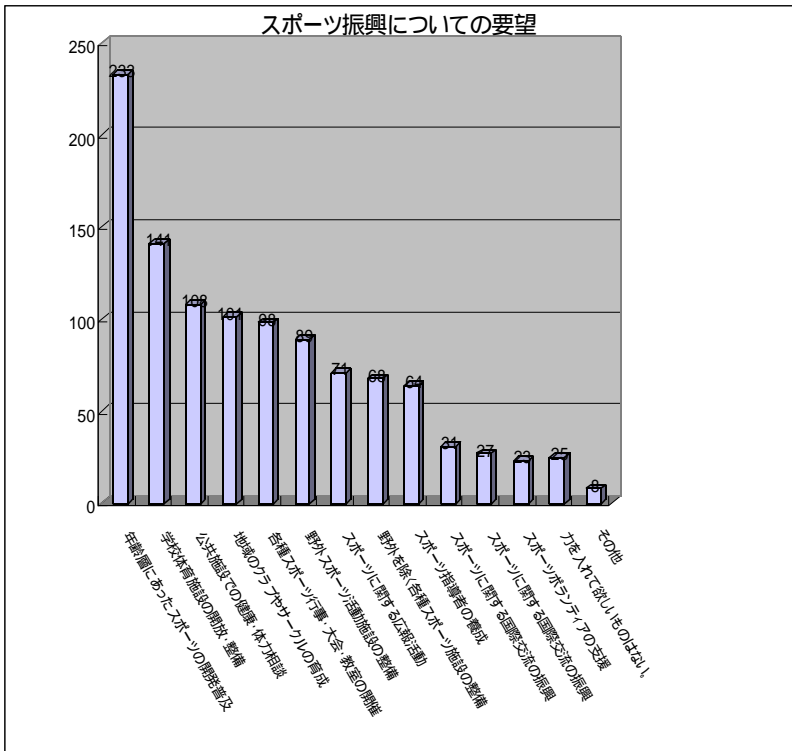
### 「学校体育施設の開放や公共スポーツ施設についての要望」

また、学校体育施設の開放や公共スポーツ施設についての要望では、「身近に利用できるよう、施設数の増加」、「初心者向けスポーツ教室や行事の充実」、「利用時間帯の増大(早朝・夜間など)」、「利用案内など広報の充実」の要望が多くありました。

### 「学校体育施設の開放や公共スポーツ施設についての要望」の課題

前記したように、施設数の増加については、長崎市の土地事情や財政面での負担を考えると難しく、現有施設の有効活用を工夫することで対応しなければなりません。利用時間帯の増大や利用案内など広報の充実等はその面でも十分検討する余地があります。また、初心者向けスポーツ教室や行事の充実を図る必要があります。

## スポーツ振興についての要望と課題

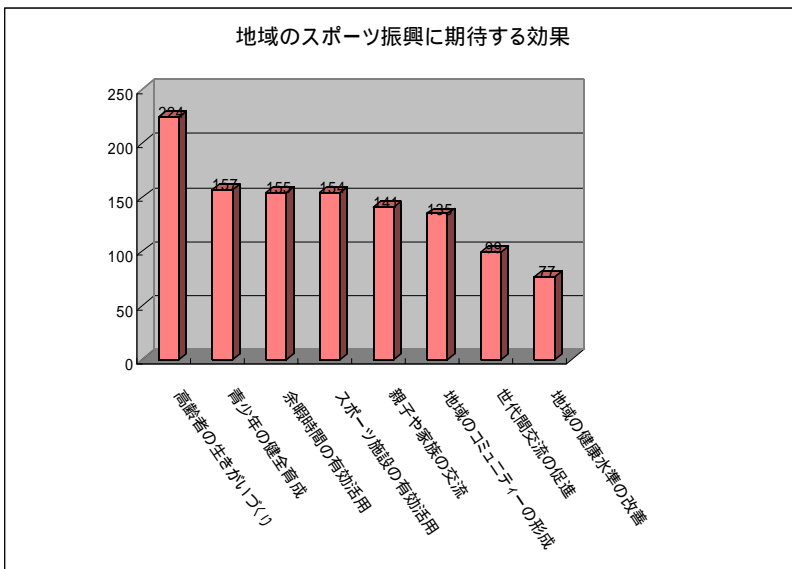


### スポーツ振興についての要望

スポーツ振興で今後どのようなことに力を入れていくべきかについては、「年齢層にあったスポーツの開発普及」がもっとも多く、ついで「学校体育施設の開放・整備」や「公共施設での健康・体力相談」が挙げられます。市民の健康・体力についての関心の高さがうかがえます。

### 「スポーツ振興への要望」についての課題

市民の健康・体力についての関心の高まりに対して、現在体力テストを長崎市体育指導委員が東西南北4ブロックで行っていますが、さらに多くの人に参加してもらうためにも、情報の提供の方法を工夫していく必要があります。また、あわせて「年齢層にあったスポーツの開発普及」に対しても、現在行われているニュースポーツ教室やレクリエーションスポーツ祭等の行事の広報の方法を工夫する必要があります。



### 地域のスポーツ振興に期待する効果

また、地域におけるスポーツ振興に期待する効果としては、「高齢者の生きがいづくり」が最も多く、ついで「青少年の健全育成」、「余暇時間の有効活用」、「スポーツ施設の有効活用」が続きます。

### 「地域のスポーツ振興に期待する効果」についての課題

市民の健康に対する関心の高さや、高齢者の生きがいづくり、青少年の健全育成などスポーツの持つ効果への期待が大きいことがアンケートの結果、よくわかります。このことを重視しながら、今後のスポーツ振興へと反映させなければなりません。しかし、地域ごとにその実態等に違いがありますので、それぞれの地域のニーズに合ったスポーツの振興を行う必要があります。

### 3. 生涯スポーツ社会を目指して ～役割分担～

生涯スポーツ社会を実現していくためには、社会においてそれぞれ役割を分担し、その責任を果たそうとすることが大切です。役割については、「個人の役割」「家庭の役割」「学校の役割」「地域社会の役割」「スポーツ関係団体・グループの役割」「企業・労働団体の役割」「大学の役割」「行政の役割」等があります。

#### (1)「個人の役割」

「するスポーツ」において重要なのは、「自主的かつ自発的であること」「楽しく爽快であること」であり、このようなスポーツに対する個人の態度とそれを尊重しようとする気持ちが個人の役割として重要なポイントです。

「みるスポーツ」においても、スポーツ観戦などを通じて多くの人々と交流することによって、連帯感を醸成し育むことが可能となり、また、一流選手のすばらしいプレーにふれる機会を持つことで、スポーツをすることの大きな動機付けになります。各個人が「みるスポーツ」に参加することの楽しさと多くの人々と交流することの大切さを理解することが大切です。

「支えるスポーツ」については、人を支えることの大切さ、人を助けることの尊さを理解し、また、活動を通じて知り合える人々とのふれあいや交流の楽しさなども、スポーツを通じた生きがいであることを十分認識することが重要です。

#### (2)「家庭の役割」

家庭は社会を形成する最小単位で、子どもたちを育て、適切な生活習慣を身につけさせて、社会へ送り出す重要な役割を担っています。家族が共にスポーツに参加したり、子どもが行っているスポーツの応援・観戦することによって、家庭内のコミュニケーションが一層深まると共に連帯感が生まれ、健康的な生活習慣の確立につながることを期待されます。また、スポーツとどう関わっていくかという価値観を育てるのも大切な家庭の役割です。

#### (3)「学校の役割」

近年、小・中学校の児童・生徒の体位は向上しているものの、体力・運動能力については低下する傾向にあります。体育の授業に対する取り組み方、部活動に関する指導などが今後検討すべき課題となります。

また、生涯を通してこの時期はスポーツにふれる最初の場となることが多く、この出会いをどうするか、スポーツに関する生涯を通しての接し方が決定する大切な役割を持っています。

今後、少子化や学校週5日制、また深刻な指導者不足等、子どもたちをとりまく教育や参加システムの問題に対処すべく(問題の解決を図るために)、学校と地域社会との連携・協力をどのようにするべきかを地域のスポーツクラブの設立をも含めて、地域全体で各種スポーツの発展を目指せるように考えていく必要があります。

さらに、小・中学校より体格・体力ともに充実する高等学校では、部活動において競技スポーツのさらなる推進を図るとともに、生涯スポーツへつなげるさらに幅広いスポーツを経験させるという大切な役割があります。

また、学校にはグラウンドや体育館、プールといったスポーツ施設があり、学校教育の枠にとどまらず、地域に根ざしたスポーツの拠点としての役割も期待され、ハード・ソフト両面での機能強化をさらに図る必要があります。

#### (4)「地域社会の役割」

地域社会は、住民の社会参加の最も基本的な単位であり、独自にスポーツイベントを企画することができます。子どもから高齢者まで世代を越えて一体となってスポーツイベントに取り組むことにより、地域社会でのコミュニケーションを深め、継続的な発展が期待できます。また、地域独自のイベントにとどまらず、地元の学校や企業等を巻き込んだスポーツイベントの開催など、多様な活動も期待されます。このようなことを含め、地域に根ざした活動を推進するためにも、これまで以上に体育指導委員の役割が重要視されます。これからは「自分たちのスポーツは、自分たちで企画・運営する」という自主的、自発的、主体的な姿勢で臨むことが望まれます。

### **(5)「スポーツ関係団体・グループの役割」**

各団体・グループがそれぞれの地域において、競技スポーツはもとより生涯スポーツ振興の「支えるスポーツ」としての役割を担うために、自主的、自発的、主体的に開催しているイベントやスポーツ教室などの一層の充実に努めるとともに、各組織の自主性を尊重した協力体制をとっていくことが期待されます。

また、スポーツ人口の底辺拡大のためにも、加盟・登録している団体・個人のみを対象にするのではなく、広く一般の市民向けのイベント（初心者教室等）にこれまで以上に主体的に取り組み、競技スポーツばかりではなく、生涯スポーツを見据えた取り組みが期待されます。

### **(6)「大学の役割」**

本市には国立・私立等の多数の大学があり、競技スポーツ選手の育成や市民のスポーツ活動の普及・振興に大きく貢献しています。

引き続き優秀な選手や指導者の育成により、市民のスポーツへの関心や取り組みの動機付けとなるように、生涯スポーツ推進の一翼を担うことが期待されます。また、スポーツに関する専門的な研究成果や知識、情報及び技術を行政や企業などと連携を取り、有効に活用していけるように協力していくことが望まれます。

### **(7)「企業・労働団体の役割」**

本市には造船業を中心とした世界的企業等があり、従業員の健康管理や福利厚生面からの企業内スポーツの推進のほか、野球、陸上などの競技スポーツ選手の育成など、スポーツの普及・振興に大きく貢献してきました。今後も従業員自身が健康作りに興味を示し、「自分の健康は自分で守る」という意識を確立することが大切であり、従業員が参加できる健康作り等活動機会の提供など環境整備の拡大・充実が必要です。また、各種スポーツイベントへの支援、地域との連携、労働時間の短縮、ボランティア休暇制度の導入など、生涯スポーツ発展への取り組み、地域への貢献も合わせて期待されます。

### **(8)「行政の役割」**

行政は、生涯スポーツ社会作りに向けて、ハード・ソフト両面からの環境整備を体系的、計画的に進めていくことが重要で、市民のスポーツに対するニーズを的確に把握しなければなりません。そのニーズを基にして、施策立案や事業化を推進していく必要があります。そのためには、関係機関との調整・連携をはかると共に、各所管との役割・機能分担、民間との役割分担も明確にしながら、相互の密接な連携を図っていかなければなりません。

特に学校教育における運動部活動や社会体育クラブにおいては、小・中・高校の連携や、一貫した指導体制作り、指導者の確保・育成が重要となり、そのバックアップも行政の大きな役割の一つとして今後取り組む必要があります。

さらに、スポーツに関する積極的な情報の発信も工夫する必要があります。

また、地域住民のニーズを考慮し、地域の実情に応じたスポーツ振興策を進め、地域イベントの企画運営や、住民の自発的なスポーツ活動に対する積極的な支援や施設の計画的な整備が求められます。